短大入学生の社会福祉への関心と福祉教育

——福祉意識の動機づけと教育方法をめぐって——

宮　本　益　治

An analysis of "the concerns of students on Social welfare in entering into a junior college" to develope better ways of the introductory instruction of social welfare

1．はじめに

周知のように，介護福祉士・社会福祉士の両制度が成立して3年が経過した。この間，介護福祉士は専門学校を中心に，社会福祉士は既成福祉系4大を中心に養成機関が誕生していった。また，労働不足を自前で解消するために各種（社会福祉，医療福祉）法人が直接介護福祉士養成にのりだす動きも現れてきた。短期大学では，とくに家政系を中心に，この介護福祉士資格を学科改編の切り札とみなす傾向が当初強力であった。

しかし，この3年間の日本の経済・社会の変化がもたらした最大級の問題の一つである労働力不足は，社会保障制度が日本型福祉社会論にブレーキをかけられたままに後退を強いられるなか，社会福祉・医療の現場を中心に急速に深刻化し，介護福祉士制度の制定で労働力の質の向上をめざそうとする動きとはうらはらに，労働力の量そのものが危機的な状況に陥るに至っている。ジャーナリズム，マスコミが高齢化社会や社会福祉の諸問題にかなりの注目をそそぎ，社会福祉ニーズの増大を告発しても，それに応える労働力の再生産の展望は現状では非常に暗いものとなっている。いわゆる「3K」問題の根深さは，情報化，国際化の掛け声のもとに伸長しつつある産業・職種と対照的に，いまや福祉系大学・短大の卒業生の就職状況とも連動し，現在および近未来的に介護者不足に象徴される社会問題の広がりを確実にものにしつつあるといってよい。

他方，高齢化社会に関する社会的関心が高まるにつれ，大学・短大などの高等教育機関で社会福祉を学ぼうとする若者が増加してきているのも事実である。問題は，彼等の教育要求が福祉労働への就労意欲に結びついていないところにある。知れば知るほど福祉労働から離れていかざるをえない。その責任の多くは日本の社会福祉の歴史と到達点に帰せられるのだが，それ

が全てなのだろうか。

私は，学生の教育要求と大学側が用意している教育プログラムとの間には大きなギャップが存在するし，学生自らの将来の生活と労働に関する一般的ないし教養的な教育要求と，大学における専門教育のプログラムおよびそのシラバスとが，必ずしも一致するものとなっていないことにも多少の責任があると考える。そして，そのことで社会福祉を学び続ける意欲が，学年が上がるにつれ減少していっていると考える。狭義の社会福祉施設での就労継続年数も短期化の様相を帯びてきているが，今必要なのは，２年間の短大における福祉教育を就労機会の一つとしての福祉労働に結び付けるのではなく，職種にかかわりなく福祉意識を持ちつづける態度形成のための教育プログラムを開発することであろう。

人間形成の基本にボランタリズムを据える効果的・合理的な教育プログラムとその流れ，およびその具現化のためのシラバスを構築する必要がある。そのうえで，福祉労働者育成の末席を汚している本学のような短大ではいかなる対応が可能なのか，また，経験や進路決定があいまいなままでも，とりあえず社会福祉を学ぼうと考えて入学してきた学生が，中途で簡単にその意欲を失わせない教育方法はどのようでなければならないのか，さらにその意欲を高め，この分野での労働や労働条件を誇り高いものに変えていく力量をもった学生に育てるにはどのような対応が求められているのか，こうした課題を真剣に検討する必要に迫られている。

ところで，本学では，1952年制定の社会福祉主事任用資格を取得できることになっているが，1987年制定の介護福祉士・社会福祉士の資格が得られる教育体系にはなっていない。本学への推薦入試合格者の手続率は，後者の制度が成立する前には100％近かったが，成立後は50％台にまで半減した。本学の立地に係わる特殊な地域的条件や受験する世代のちがいがあるとはいえ，1987年までの入学生と比較して，その学習意欲や力量にも微妙な変化が現れてきている。

本学では，両制度成立後の今となっては社会的認知の得られる社会福祉労働に直接つながる事実上の資格を提供できないのだが，そうした短大への入学生の社会福祉への関心はどのようなものであり，どのような経験のもとに育まれてきているのだろうか。また，どのような教育的かかわりに留意していけば成果をあげることができるのだろうか。短大での大学教育の限界や短大入学生のキャラクターの問題といったマイナス要因があるとはいえ，我々がなしうる最善の努力とは何なのか。

２．『社会福祉への関心についてのアンケート』より

今回の研究は，1990年度東海学園女子短期大学家政学科の生活福祉・人間関係コース入学生176名（生活福祉57名，人間関係119名）[1] を対象に行った『社会福祉への関心についてのアンケート』調査に主力を注いだ（調査表は文末資料参照）。まずその結果の概要から紹介し，福祉教育を開始する前の学生の関心や姿勢を詳らかにしておきたい。

調査の項目は，全体で９項目を用意した。そのなかで主たる分析の対象として設定したのは，１）社会福祉への関心の度合（Ｑ１），２）関心のある事柄（Ｑ２），３）関心を抱くことになった契機（Ｑ３），４）入学への満足度（Ｑ８），５）卒業時の目標（Ｑ９）などの５項目で，その他４項目（Q4：関心を抱くことになった契機の時期，Ｑ５：高校時代の過ごし方，人間形成，Ｑ６：短大生活の目標，Ｑ７：教員への期待）は要因分析作業用に用意した。

１）社会福祉への関心の度合（Ｑ１）

社会福祉主事任用資格を取得できるコースに入学してきた学生が，入学時点でどの程度社会福祉に関心をもっているのか。

その結果，「とてもある」20.8%，「まあまあある方」42.6%で，計63.4%が関心があると答えた。社会福祉主事任用資格の取得との関係は問わなかったが，福祉教育を実施する過程に入学したはずの学生であっても，およそ３分の１ははじめから関心をもっていない。

コース別には，生活福祉コース（以下，Ｆコースと略す）では，「とてもある」49.2%，「まあまあある方」32.2%，計81.4%，人間関係コース（以下，Ｎコースと略す）では，順に7.6%，49.6%，計57.2%と関心の度合ではかなりの差があった。この差については，次の２）で紹介する「関心のある事柄（Ｑ２）」を分析してみて分かったことだが，福祉のもつ意味や福祉問題にかかわる姿勢というものを学生が非常に限定してとらえた傾向から生まれていると思われた。

２）関心のある事柄（Ｑ２）

福祉教育の導入をはかるうえでその教育対象に含まれると考えられる項目を，表１にあるように16項目用意し，それぞれに「はい」「いいえ」「どちらでもない」の三択で答えさせた。

その結果，１）の「関心の度合」では大きな差があったが，具体的な関心事ではＦコースもＮコースもほとんど大きな差はなかった。全体で最も関心が高かったのは，「13. 登校拒否，自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを，心理学的・感性的によく理解したい」(86.1%）で，コース別には，Ｎコースで91.1%，Ｆコースで75.5%の高率であった。逆に最も関心が低かったのは，「12. “こどもは社会の宝”というが，その理由を細かく具体的に理解したい」(30.9%）にすぎなかった。

コース別の特徴では，Ｆコースでは，第１位が「３．飢えに苦しむ開発途上国の人々・子供達への援助を考えたい」で84.9%，第２位「４．開発途上国の人々がなぜ飢えに苦しんでいるのか理解したい」(81.1%)，第３位「14. 登校拒否，自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを，社会の変化や文化とのかかわりでよく理解したい」(77.4%）となった。ただ，その他の項目もほとんど70%以上の高率を示していて，福祉に係わるあらゆる分野を学ぼうとする意欲が高い。

表１　関心のある事柄

コース Ｑ２ 次のような事柄には関心がある。	生活福祉	人間関係	全体
1. 日本には非常に貧しい生活状態にある人もいて、そうした人達への援助を考えたい。	42 *72.9*	72 *64.3*	114 *69.1*
2. 日本には非常に貧しい生活状態にある人もいるが、なぜそうした状態が生まれるのか勉強してみたい。	33 *62.3*	75 *67.0*	108 *65.5*
3. 飢えに苦しむ開発途上国の人々・子供達への援助を考えたい。	45 *84.9*	88 *78.6*	133 *80.6*
4. 開発途上国の人々がなぜ飢えに苦しんでいるのか理解したい。	43 *81.1*	79 *70.5*	122 *73.9*
5. 一人暮らし、夫婦だけの高齢者の世帯が増えるのは好ましいことではないという気持ちで高齢化問題を考えてみたい。	36 *67.9*	72 *64.3*	108 *65.5*
6. ひとり暮らし、夫婦だけの高齢者の世帯が増えているが、なぜそういう傾向になっているのかを分析研究してみたい。	36 *67.9*	53 *47.3*	92 *55.8*
7. 痴呆性老人、痴呆とは何か、どのような人が痴呆老人になりやすいのか、などをしっかり学びたい。	34 *64.2*	72 *64.3*	106 *64.2*
8. ねたきり・痴呆性老人などの要援護老人の方々への援助の方法を学びたい。	31 *58.5*	44 *39.3*	75 *45.5*
9. 身体障害者や知恵遅れの人々（精神薄弱者）に どんな援助をしたらよいのか、その方法を学びたい。	40 *75.5*	57 *50.9*	97 *58.8*
10. なぜどのようにして身体障害者や知恵遅れの状態にいたるのか、その環境や理由を知りたい。	40 *75.5*	75 *67.0*	115 *69.7*
11. 日本の歴史の中で障害者がどのように扱われてきたのか、障害者の生きる権利について勉強してみたい。	39 *73.6*	59 *52.7*	98 *59.4*
12. 「こどもは社会の宝」というが、その理由を細かく具体的に理解したい。	14 *26.4*	37 *33.0*	51 *30.9*
13. 登校拒否、自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを、心理学的・感性的によく理解したい。	40 *75.5*	102 *91.1*	142 *86.1*
14. 登校拒否、自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを、社会の変化や大人の文化とのかかわりでよく理解したい。	41 *77.4*	88 *78.6*	129 *78.2*
15. こどもの発達を促進・阻害する要因を親のありかたとの関係でよく理解したい。	40 *75.5*	89 *79.5*	129 *78.2*
16. 女性が働くことと保育園幼稚園などの制度との関係を理解し、女性の社会参加・男女平等の課題を勉強したい。	30 *56.6*	67 *59.8*	97 *58.8*
17. その他是非勉強してみたいと思うことがありましたら、裏面に記入してください。	5 *9.4*	1 *0.9*	6 *3.6*
（ＮＡ除く）　TOTAL	53 *100*	112 *100*	165 *100*

Ｎコースでは，第１位は先に紹介した「13．登校拒否，自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを，心理学的・感性的によく理解したい」(91.1％）であったが，第２位が「15．こどもの発達を促進・阻害する要因を母親のありかたとの関係でよく理解したい」(79.5％)，第３位がＦコースの３位と同様，「14．登校拒否，自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを，社会の変化や文化とのかかわりでよく理解したい」(78.6％）と，Ｆコースの２位の「３．飢えに苦しむ開発途上国の人々・子供達への援助を考えたい」(78.6％）であった。

要援護老人対策，障害者関係への実践的な関心は，Ｆコースに比べて10～20％以上低かった。しかし，社会福祉への関心の度合はそれほど高くはないものの，社会福祉のなかみに関する具体的な事柄については非常に関心が高い。

３）社会福祉に関心を抱くことになった契機について（Ｑ３）

社会福祉に関心を抱くことになったきっかけで最も多かったのは（複数回答)，「飢えに苦しむ人々（アフリカなど）のことをさまざまなメディア（本，新聞，テレビ，町角の宣伝）で知った」で，全体の62.3％（Ｆ：59.3％，Ｎ：66.4％）を占めた。

次に多かったのは「保母になりたいと思ったことがある」で39.9％（Ｆ：42.4％，Ｎ：40.3％)[2)]，第３位が「老人問題をテレビで勉強した」39.3％（Ｆ：52.5％，Ｎ：34.5％）であった。「登校拒否や人間関係のことで悩んだ」ことをあげる学生が，23.5％（Ｆ：22.0％，Ｎ：25.2％）存在した。

これを前項２)の「関心のある事柄」との関係で分析すると（表２)，第１位の「飢えに苦しむ人々（アフリカなどで）のことをさまざまなメディア（本，新聞，テレビ，町角の宣伝など）で知った」学生は，Ｑ２の「16．女性が働くことと保育園幼稚園などの制度との関係を理解し，女性の社会参加・男女平等の課題を勉強したい」希望を持つ学生に最も多く（72.4％)，Ｑ２の「11．日本の歴史の中で障害者がどのように扱われてきたのか，障害者の生きる権利について勉強してみたい」とする学生に最も少なかった（61.6％)。

第２位の「保母になりたいと思ったことがある」学生は，「12．“こどもは社会の宝”というが，その理由を細かく具体的に理解したい」学生に最も多く（59.9％)，「７．痴呆性老人，痴呆とは何か，どのような人が痴呆老人になりやすいのか，などをしっかり学びたい」学生に最も少なかった（41.9％)。

第３位の「老人問題をテレビで勉強した」ことのある学生は，「８．ねたきり・痴呆性老人などの要援護老人の方々への援助の方法を学びたい」学生に多かった（54.9％)。

狭義の社会福祉への関心は，直接的というより，テレビ・新聞などの間接的な体験や知識に基づいていることを伺わせている。ただし，「身近（家族・親戚・近所・学校）に障害者がいる（いた)」あるいは「老人ホームを訪ねたことがある」「半身不随の人がまわりにいた」などの直接体験の持ち主の割合を単純に合算すると，61.7％であり，社会福祉への関心形成に相当

表2　関心のある事柄と経験・体験の関係（%）

Q2 次のようなことには関心がありますか？<はい> ＼ Q3 あなたが社会福祉に関心を抱くことになったきっかけはどんなことでしたか？	3-1 家族・親戚に障害者がいる	3-2 近所・地域・学校に障害者がいた	3-3 テレビで障害者を知った	3-4 かぎっ子で育った	3-5 いじめにあった	3-6 登校拒否や人間関係で悩んだ	3-7 飢えに苦しむ人々のことを知った	3-8 母親になることに不安を感じた	3-9 老人問題を高校で勉強した	3-10 老人問題をテレビで勉強した	3-11 祖父母と同居している	3-12 老人ホームを訪ねたことがある	3-13 ホームレスの人が増えていることを知ってたい	3-14 浮浪者のことが気になった	3-15 親子・一家心中のことが気になる	3-16 半身付随の人が周りにいた	3-17 親・親戚に福祉従業者がいる	3-18 友人・先輩に福祉従業者がいる	3-19 福祉の伝記や本を読んだ	3-20 保母になりたいと思った
2-1 貧富の差・援助	19.0	31.0	34.5	1.7	5.2	24.1	68.1	19.8	18.1	41.4	22.4	12.1	12.9	21.6	12.1	6.9	9.5	4.3	14.7	44.8
2-2 貧富の差・理由	15.7	28.7	32.4	1.9	7.4	25.9	65.7	17.6	20.4	41.7	25.0	13.9	17.6	16.7	11.1	10.2	12.0	4.6	12.0	44.4
2-3 飢える人・援助	15.8	30.1	36.1	0.8	6.8	24.8	70.7	19.5	17.3	43.6	27.8	12.0	16.5	17.3	9.0	9.0	9.8	3.0	12.8	43.6
2-4 飢える人・理由	14.8	27.0	34.4	0.8	6.6	24.6	68.9	21.3	18.9	43.4	27.0	11.5	15.6	16.4	11.5	8.2	10.7	5.7	13.1	45.1
2-5 高齢化・伝統	18.3	29.4	34.9	0.9	5.5	26.6	69.7	21.1	15.6	45.0	24.8	11.0	14.7	18.3	10.1	9.2	11.0	1.8	11.0	44.0
2-6 高齢化・近代	17.8	27.8	40.0	1.1	8.9	27.8	65.6	17.8	22.2	47.8	25.6	11.1	17.8	18.9	11.1	11.1	11.1	3.3	14.4	47.8
2-7 痴呆について	17.1	29.9	37.6	0.9	8.5	27.4	69.2	19.7	20.5	49.6	23.1	12.0	17.9	13.7	9.4	8.5	10.3	3.4	12.8	41.9
2-8 ねたきり・痴呆への援助	19.8	31.4	34.9	1.2	5.8	26.7	70.9	16.3	17.4	54.7	25.6	14.0	15.1	20.9	12.8	12.8	10.5	2.3	16.3	47.7
2-9 身障・知恵おくれ・援助	19.4	33.7	33.7	1.0	6.1	25.5	70.4	21.4	20.4	45.9	20.4	13.3	16.3	15.3	11.2	10.2	10.2	6.1	13.3	48.0
2-10身障・知恵おくれ・理由	19.1	29.6	30.4	0.9	6.1	25.2	65.2	18.3	20.9	43.5	20.0	13.0	17.4	14.8	11.3	8.7	9.6	7.8	10.4	43.5
2-11障害者の歴史	16.2	29.3	31.3	1.0	7.1	23.2	61.6	19.2	19.2	42.4	19.2	14.1	16.2	15.2	11.1	10.1	10.1	6.1	13.1	42.4
2-12子ども・社会の宝	7.5	26.4	37.7	1.9	3.8	24.5	69.8	24.5	18.9	43.4	28.3	9.4	17.0	17.0	11.3	9.4	7.5	9.4	17.0	50.9
2-13登校拒否・心理学	16.2	30.3	33.1	1.4	7.7	26.1	66.9	22.5	19.7	40.1	24.6	12.0	18.3	15.5	11.3	8.5	9.9	5.6	12.0	43.0
2-14登校拒否・社会変化	17.7	30.8	35.4	1.5	7.7	26.2	67.7	22.3	20.8	43.1	25.4	13.1	16.9	14.6	12.3	9.2	10.0	6.2	13.1	44.6
2-15子どもの発達・躾の方	15.9	31.8	34.1	0.8	9.1	28.0	69.7	24.2	20.5	43.9	27.3	12.9	18.2	18.2	11.4	10.6	9.8	5.3	12.9	43.9
2-16女性・の社会参加	16.3	29.6	35.7	2.0	8.2	29.6	72.4	21.4	18.4	45.9	27.6	9.2	19.4	16.3	10.2	10.2	11.2	2.0	13.3	46.9
回答者全員での率	15.8	27.3	28.4	1.1	7.1	23.5	62.3	19.1	17.5	39.3	24.0	10.9	15.8	14.2	9.3	7.7	7.7	4.9	10.4	39.9

程度の寄与度を示している。したがって，必ずしも関心の発生が体験の間接性とばかり相関しているとはいいきれない。今後本学への入学生にかぎらず，短大で福祉を学ぼうとする学生の社会福祉への関心形成がどの程度体験の直接性と関連したものとなっていくのか，かなり注目し続ける必要がある。

4）入学への満足度と卒業時の目標（Q８，９）

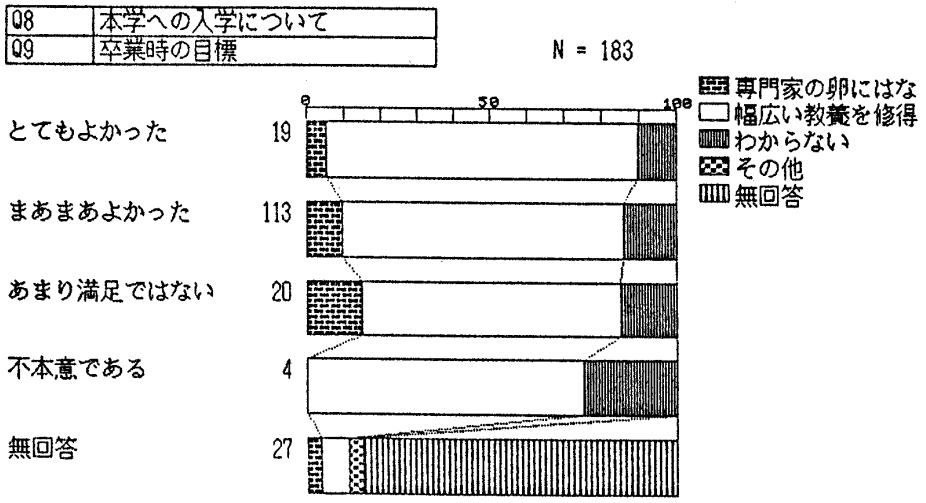
社会福祉を体系的に学びたい学生にとって，本学が最適であるとはいえない。近年の女性の４大志向もあって，他の４大を落ちたから本学に来たとする学生も少なからずいる。

本学への入学を「とてもよかった」と考えている学生は，全体の10.4％（F：18.6％，N：6.7％）で，「まあまあよかった」が61.7％（F：50.8％，N：69.7％）であった。「あまり満足ではない」と「不満足である」はあわせて13.1％（F：10.2％，N：18.1％）であった。

他方，卒業時の目標については，「専門家の卵にはなっていたい」8.7％（F：11.9％，N：7.6％），「幅広い教養をみにつけていたい」66.1％（F：57.6％，N：73.1％），「わからない」12.0％（F：15.3％，N：10.9％）と，いわゆる教養型が３分の２を占めていた。

本学への入学生は，入学を「とてもよかった」と感じている学生ほど「幅広い教養をみにつけたい」と考え，「あまり満足ではない」と考える学生ほど「専門家の卵にはなっていたい」と考える傾向が強い（図１参照）。専門の意味を学生がどのようなものと考えているかは定かでないが，これは，本学（のような短大）での専門教育への期待が稀薄なものになっていると同時に，短大での専門教育には程度の差こそあれ，当初から期待できないとの理解が底辺にながれていることの現れと考えてもよい。

図１



5）教員への期待

以上，本学への入学生の福祉への意識（度合，関心事柄）を中心に，調査結果のあらましを紹介してきたが，さらに，彼等の学習意欲が短大教育のなかみにどのようにつながっているのかを検討しておきたい。つまり，社会福祉に関心があっても，また個々の具体的な事柄に関心は持っていても，そのことと教員に対することとはストレートにつながっているのかどうかの問題である。

今回の調査の結果は，このことに極めて残念な傾向を示した。「教員に期待することはない」と答えた学生が全体の69.4％（F：71.2％，N：71.4％）[3] を占めた。「ある」と答えたのは16.9％（F：15.3％，N：18.5％）で，2割を切るほどの少数派であった。

こうした状況下にあっては，福祉教育はおろか短大教育の真の効果を上げるのは至難の技である。2年間の教育は「育」と人間形成，あるいは動機づけに重点を置かざるをえないことが今更のように明らかになった。

ちなみに，教員に期待することが「ある」学生の期待のなかみは，第1位「役に立つ知識や経験を与えて欲しい」28.5％（F：28.6％，N：29.4％），第2位「N. A.」22.1％，第3位「強制的なことはさけて自由にさせてほしい」17.7％（F：10.7％，N：21.9％）で，「しっかり知識を伝授してほしい」は，9.9％（F：11.9％，N：8.8％）にすぎなかった。

3．福祉教育の導入の方法と学生の育成について

調査結果の最大の特徴は，教える側がさまざまな関心を抱いている学生に積極的なかかわりをもとうとしないかぎり，学生は大学教育に自主的主体的に取り組ま（め）ずに「関心のもちぐされ」という結果を予感させるところにある。あるいは，その危険性が非常に高いというところにある。

しかし，そのことはある程度あらかじめ研究開始前にも予期していた。冒頭でも述べたように，私は，研究テーマの重点を「動機づけの方法」におき，福祉教育のシラバス開発によって，入学時より高く深い関心を持って卒業を迎えられるようにと研究目標を掲げた。もちろん，この目標を全面的に達成するには，単なる研究だけでなく熱意をともなった実践活動が不可欠ではあるが，以下，今回の研究で得られた成果と試案を列記していきたい。

1）社会福祉への関心の型について

前章2）であげた16の「関心のある事柄」は，貧困問題，国際関係（国際福祉），高齢者問題，障害者福祉，児童福祉，心理学関係，女性問題などといった項目に分かれるが，そうした分野・領域に関する項目設定のしかたとは別に，関心の持ち方に関する分類法にも留意してある。つまり，「直接援助・実践的関心」と「間接的・社会科学的関心」の2種類である。「～を援助し

たい」というタイプと「～を理解したい」タイプの２タイプといってもよい。この２つのタイプはともに社会福祉を学ぶ上でどちらも非常に重要である。

今回の調査では，「援助」型は，社会福祉へ関心の度合いが高いＦコースに多く，「自分に出来ることは何か」といった問題意識をもつ傾向が強かった。登校拒否問題のような心理学的諸問題には距離をおきやすい傾向があった。他方，「理由」型の学生は，各種の福祉問題には相対的に距離をおきつつも，自らを納得させる論拠を探求しようとする（アイデンティティーの確立）姿勢が明確であった。

単純にいえば，「援助」型の学生には，いかに直接体験の場を効率的・継続的に保障するかに留意しなければならないだろう。そして，その上でその体験の整理のしかたを訓練するという順序が適切といえよう。他方，「理由」型には，間接体験の直接化に留意しつつも，たとえば経済学・社会学といった社会科学の理論的関心の育成とそれを個々の学生の関心事項につなげる（見えるようにする）努力が肝要であろう。ただ，いずれの型にしても，心理学への関心の高さに見られるように，青年期特有の自己形成（不安とアイデンティティーの確立への関心）の課題の比重が大きいので，それぞれの自己形成の課題を明確にする作業を充全に保障・援助していく必要があることはいうまでもない。

ところで，「援助」型と「理解」型とに分けられる学生への教育的アプローチは，いうまでもなく，素直にその性格と関心のもちかたを引き上げ伸ばすところにある。「援助」型には無理な理論づけを急がないこと，「理論」型には無理な直接体験を急がないことである。

表３　高校時代の自己形成と関心の「型」

項目	援助型	理解型
クラブ活動	運動・文化サークルともに熱心だった	クラブ・サークルに熱心でなかったか、所属しなかった
自己形成	自分の将来や生き方に自信がもてるようになった	自分の長所や短所を理解できるようになった
友人関係	友達からよく相談を受ける方だった	特定の友達とつきあう方だった
短大生活の目標	友達をたくさんつくる 好きに時間を使う	金をため旅行をする 生き方・進路を決定する

今回の調査研究で，おそらく（充分な比較研究ができていないので）はじめての調査項目となったのは[4]，福祉系大学入学者の高校時代の自己形成にやや立ち入ったところにある。その調査結果の相対的な特徴を表記すると，表３のようである。

「援助」型と「理解」型とでは，一見性格がきわめて対照的である。「援助」型は比較的早期に自己形成を達成しているように思われるが，「理解」型はそうした課題を内向化させる傾向にあるといってもよい。ただし，あくまで相対的な対照にすぎない。

２）今後の研究課題

まだ確定的な結論が得られたわけではない。登校拒否や人間関係のことで悩んだ学生の割合が高いように思うが，それは今日の学生にとってはきわめて一般的な体験なのかもしれない。ただそうしたネガティヴな色彩の強い体験が，実際に他の学科コースではなく福祉系のコースを選択させたとするならば，その具体的な心・人間形成のプロセスを注意深く明らかにする作業が求められる。教員への期待が薄いのも，見方によっては，「哲学の時代」[5] ともいわれる今日および日本の将来にとって，社会の再生の原動力となる萌芽なのかもしれない。青年期における人間形成・学校教育のありかたに関する緻密な研究が待たれる。

福祉教育の導入のしかたについては，実習・演習科目をカリキュラム上できるだけ早期に導入することの重要性を筆頭に，本学におけるこれまでの教育評価活動によってある程度の結論を得ている[6]。それは，今回の整理の仕方でいえば，「援助」型の学生にはなるべく早く体験学習を積ませるというところにある。しかし，「理解」型には自己形成の課題に関する徹底した内省から教育をはじめなければならない。このことに改めて気付かされたのも，今回の研究成果の一つであった。

すでに述べたように，社会福祉の学習やそれを通した人間形成には，両方の型がバランスよく一つの人格に統合されなければならない。これは，今後「態度」の形成に関する研究として，さらに研究計画を立て直して進めなければならないと考える。とりわけ，今指摘した「理解」型の学生に対する「徹底した内省教育」の手段としての体験学習の比重あるいは時期についての詳細な研究を進める必要がある。また，「援助」型の学生がどのような筋道で自らの体験を理論化・抽象化していくのか，その段階に関する整理・研究が求められる。

いずれにしても，おそらく，どちらかといえば成功というよりは失敗の連続を続けている福祉教育の再生のカギは，若者の深層意識に潜む「大人文化」への抵抗を，「抵抗→あきらめ」に追いやるのではなく，次代の担い手となる培養基とみなし，積極的に生産的な次元に接ぎ木することができるか否かにある。

シラバスに関する研究では，今回行った調査研究をさらに継続化し，経年変化の特徴の中からも法則を明らかにする姿勢が重要であろう。

注

1）集計の過程で総数が183名となってしまった。7名分のダブリが生じてしまったが，集計分析の意味の大要に影響を与えない範囲にあると判断し，183名を母数に以下分析を続行した。なお，回収率は，調査対象の性格上，無回答を含めて100％であった。

2）コース不明で無解答者が5名いたため，全体の3％が低下した。

3）同上

4）たとえば，日本福祉大学が継続的に実施している入学生への調査でも自己形成にかんする調査項目はきわめてシンプルである。

5）「文化の時代」と言い換えてもよい。実証不能の議論ではあるが，価値と規範に関する一大事業であることにちがいはない。

6）1985年より毎年10月～11月にかけて『教育内容の充実のために』と題する調査を本学家政学科生活福祉コース1年生を対象に実施してきた。その経年比較の結果は，社会福祉実習の早期実施，実習科目の増加が必要であることを示していた。

〈参考文献〉

1．『「卒業生」のフォローアップ調査―日本社会事業大学福祉教育にあゆみに関する研究―（開校より四年制大学昇格まで）』1989．3　榎戸新平著　非売品

2．『大学授業の研究』片岡徳雄・喜多村和之編　1989．11　玉川大学出版部

3．『社会福祉実習教育論』大島侑編　1985．11　海声社

資料1

社会福祉への関心についてのアンケート

コース　生活福祉　人間関係A　人間関係B（　　）番

<まず、現在の関心について伺います>

1．あなたは社会福祉に関心がありますか。

1.とてもある
2.まあまあある方
3.あまりない方
4.ほとんどない
5.まったくない

2．では次のような事柄には関心がありますか。それぞれに「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で答えてください。）

1.日本人が豊かなくらしをしているというけれど、なかには非常に貧しい生活状態にある人もいて、そうした人達への援助を考えたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
2.日本人が豊かなくらしをしているというけれど、なかには非常に貧しい生活状態にある人もいるが、なぜそうした状態が生まれるのか勉強してみたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
3.飢えに苦しむ開発途上国の人々・子供達への援助を考えたい。（はい、いいえ、どちらともいえない））
4.開発途上国の人々がなぜ飢えに苦しんでいるのか理解したい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
5.家族と一緒に暮らさない高齢者（一人暮らし、夫婦だけの世帯）が増えているが、それはあまり好ましいことではないという気持ちで高齢化問題を考えてみたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
6.家族と一緒に暮らさない高齢者（一人暮らし、夫婦だけの世帯）が増えているが、なぜそういう傾向になっているのかを分析研究してみたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
7.痴呆性老人、痴呆とは何か、どのような人が痴呆老人になりやすいのか、などをしっかり学びたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
8.ねたきり・痴呆性老人などの要援護老人の方々への援助の方法を学びたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
9.身体障害者や知恵遅れの人々（精神薄弱者）がどんな生活をしているのか、どんな援助をしたらよいのか、その方法を学びたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
10.なぜどのようにして身体障害者や知恵遅れの状態にいたるのか、その環境や理由を知りたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
11.日本の歴史の中で障害者がどのように扱われてきたのか、障害者の生きる権利について勉強してみたい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
12.「こどもは社会の宝」というが、その理由を細かく具体的に理解したい。（はい、いいえ、どちらともいえない）
13.登校拒否、自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを、心理学的・感性的によく理解したい。（はい、いいえ、どちらともいえない）

14.登校拒否、自閉症などの心の病がなぜ起きるのかを、社会の変化や大人の文化とのかかわりでよく理解したい。（はい、いいえ、どちらともいえない）

15.こどもの発達を促進・阻害する要因を母親のありかたとの関係でよく理解したい。（はい、いいえ、どちらともいえない）

16.女性が働くことと保育園幼稚園などの制度との関係を理解し、女性の社会参加・男女平等の課題を勉強したい。（はい、いいえ、どちらともいえない）

17.その他是非勉強してみたいと思うことがありましたら、自由に記入して下さい。

Q3．Q1で「とてもある」「まあまあある」と答えた人にお聞きします。あなたが社会福祉に関心を抱くことになったきっかけはどんなことでしたか。つぎのなかからあてはまるものすべてに○を打って下さい。また、そのなかで特別のものがありましたら、◎をつけて下さい。

1.家族（親、兄弟、祖父母）のなかに障害をもった人がいた。
2.親戚のなかに障害をもった人がいた。
3.近所や地域でよく障害をもった人をみかけた。
4.学校で「なかよし学級」のような特殊学級に通う友達のことがとても気になった。
5.テレビで障害者をもった人（子）のことを知った。
6.自分が「かぎっ子」で育ったことが辛かった。
7.「いじめ」や「無視された」経験があった。
8.同級生や学校の中で登校拒否や人間関係のことで悩む人がいた。
9.自分自身が登校拒否や人間関係のことで悩んできた。
10.飢えに苦しむ人々（アフリカなどで）のことを本や新聞で知った。
11.飢えに苦しむ人々（アフリカなどで）のことをテレビで知った。
12.飢えに苦しむ人々（アフリカなどで）のことを町角の宣伝などで知った。
13.自分が母親になることに不安を覚えたことがある。
14.高齢化社会や老人問題について高校の授業で勉強した。
15.テレビで高齢化社会や老人問題について知った。
16.おじいさん、おばあさんと一緒に住んでいる。
17.おじいさん、おばあさんと一緒に住んでいない。
18.老人ホームを訪ねたことがある。
19.自分の祖父または祖母が老人ホームに入っている。
20.親戚に老人ホームに入っている人がいる。
21.アメリカなどの先進国でホームレスの人が増えていることを知った。
22.駅のホームや街頭の浮浪者のような人々の生活のことがとても気になった。
23.親子心中や一家心中などの事件があとを断たないこと。
24.脳卒中や高血圧、交通事故などで半身付随になってしまった人がまわりにいた。
25.父または母が社会福祉関係の仕事をしている。
26.親戚に社会福祉関係の仕事をしている人がいる。
27.友人・先輩に社会福祉関係の仕事をしている人がいる。

28.福祉の仕事や運動に献身した人々の伝記や本を読んだ。
29.保母になりたいと思ったことがある。
30.その他（具体的に…　　）
31.とくにない。

Q4．いま◎を打った事柄について伺います；それはいつごろのことですか。
1.小学校入学前　2.小学1,2,3 年　3.小学4.5.6年　4.中学生　5.高校1,2年　6.高校3年
7.その他（　　）

Q5．あなたは高校時代をどのように過ごしてきましたか。それぞれの設問で該当するもの　のすべてに○を打ってください。

A－1.運動クラブに全力を使った。
2.理科系のサークルに熱中した。
3.文化系のサークルに熱中した。
4.クラブやサークルに所属はしていたが、あまり熱心ではなかった。
5.クラブやサークルには所属していなかった。
6.学校以外のクラブやサークルに所属し、頑張った。
7.その他（　　）

B－1.世の中の動きや人々の生活に関心がもてるようになった。
2.自分の将来や生き方に見通しがもてるようになった。
3.自分だけの楽しみや時間の使い方を身に付けることができるようになった。
4.自分の長所や短所がよくわかるようになった。
5.他人の意見に流されないようになった。
6.できるだけ多くの人や本に触れたいと思うようになった。
7.中学時代の自分とあまり変わらなかった。
8.その他（　　）

C－1.好きな科目と嫌いな科目がはっきりしていた。
2.好きな先生と嫌いな先生とがはっきりしていた。
3.好きな科目でも先生が嫌いだとあまり勉強しなかった。
4.先生が嫌いでも好きな科目ならよく勉強した。
5.嫌いな科目でも好きな先生の場合にはよく勉強した。
6.どっちにしてもあまり勉強しなかった。
7.その他（　　）

D－1.友達からよく相談を受ける方だった。
2.友達によく相談をもちかける方だった。
3.特定の友達とつきあうほうが多く、概して友達の数は少ないほうだった。
4.深くつきあうのは不得手で、わいわい楽しむのが好きだった。
5.人を傷付けることが多いほうで、後になって後悔することが多かった。
6.なにやらいつも淋しくて、てもちぶさたなことが多いほうだった。
7.ちょっとしたことで不安になり、考え込むことが多いほうだった。
8.その他（　　）

Q6．この2年間であなたがしてみたいと思うことはどんなことですか。あてはまるものすべてに○を打ってください。

1.友達を沢山つくる
2.好きなように時間を使う
3.思い切って本を読む
4.お金をためていろいろなところを旅行する
5.自分の生き方や進路をはっきりさせる
6.自分の人格や人間性を磨いていきたい
7.素敵な彼をみつけたい
8.あまり考えていない
9.その他（　　）

Q7．教員に期待することはありますか。

1.ない
2.ある→どんなことですか（該当するもの全てに○を打ってください）
1.しっかり知識を伝授してほしい
2.ものの見方や人生観を教えて欲しい。
3.役に立つ知識や経験を与えて欲しい
4.あまり強制的なことはさけて自由にさせて欲しい。
5.悩みごとや相談に親身になってのって欲しい。
6.厳しく指導してほしい。
7.その他
（　　）

Q8．あなたは本学に入学したことを本心ではどのように思っていますか。

1.とてもよかった
2.まあまあよかった
3.あまり満足ではない
4.不本意である

Q9．あなたが卒業する時点のことを考えると、次のうちどちらのタイプの人間になって　いたいと思いますか。

1.専門家の卵にはなっていたい
2.幅広い教養をみにつけていたい
3.わからない
4.その他（　　）

ごくろうさまでした